一度は彼女を抱いたものの、その後の葛藤と苦悩が続く。

彼が彼女を想って下した決断とその余波を、理事長視点から語らせます。

全編理事長の独白形式です。

キスシーンの表紙ありヴァージョン・なしヴァージョンをご用意しました。

（文中からハイライトシーンを抜粋）

【中略】

「……つまり。我々は、ここにいる間は、肉体関係を持った男女ではない。

私的な交際をしているという事柄は、なんとしても公にしてはならない。

……でなければ、早晩私に身の破滅が訪れるだろう」

「身の……破滅」

彼女はそれを復唱した。

「そうだ。……淫行条例に抵触するような事態をやらかしてしまったのだから。

1〇歳に満たない君と性的関係を結んだのだからね。君も、日頃ニュース等で

耳にしたことくらいあるだろう。こういった事例で、逮捕に至る年長者の男や

教育関係者は、枚挙に暇がない」

【中略】

「あんなに優しくしてくれたのに。……それから、愛してるって何度も言ってくれましたよね。……それも、嘘だったとか？その場のノリでそう言っただけだったんですか？」

「違う、私は……」

口論になりかけ、二人とも声がうわずって大きくなっているのに気付いた。

「今はやめよう。……もし、他人に聴かれでもしてはまずい」

「じゃあ！ちゃんと、どこか別な場所で、話の続きをしてください。でないと私

納得なんてできませんからっ」

【中略】

「……私、だめなんです。もう、あなたを知らなかった頃には、戻れない……」

健気な言葉を振り絞る彼女は涙声で、震えている。

腕の中にいる彼女が限りなく愛しい。

この小さなぬくもりを失いたくない。

泣かせたくない、哀しませたくない。

出来るならいつでも笑っていて欲しい、そう願うのは私の我儘なのか。

感情を極力理性で抑え、割り切った上でひねり出した言葉でさえ、彼女の涙の一筋で

呆気なく崩れ去っていく。

震える少女の体を抱きしめ、その熱さとしなやかさ、甘い香りで目の前が
くらりと揺れる。